

# —日本医療機能評価機構 第45回報告書を公表— 「腫瘍薬に関連した事例 ①概要」等を掲載

日本医療機能評価機構から、「医療事故情報収集等事業第45回報告書」が公表されました。

今回より、腫瘍用薬に関連した医療事故情報やヒヤリ・ハット事例を個別のテーマとして取り上げ、4回にわたって分析をすることになっています。腫瘍用薬に関連した医療事故情報では、「薬剤の血管外漏出・血管炎」と「腫瘍用薬投与中の状態の悪化(副作用等)」の報告件数が多く、ヒヤリ・ハット事例では「支持療法の間違い」の事例が多かった、と報告されています。

腫瘍用薬は主に複数の薬剤を使用すること、患者の体表面積や体重によって投与量が決定されること、当日の検査値などから減量や投与中止の判断がされること、患者への影響が大きい薬剤ということから、十分注意して取り扱いをしなければなりません。腫瘍用薬を安全に投与するためには、複雑な治療計画や出現する可能性のある副作用について、患者を含め多職種間で情報を共有することが必要です。

看護職は、腫瘍用薬投与の最終行為者になることが多いだけでなく、患者の状態やその変化を観察し、記録等でチーム内に共有する役割があります。今回から4回にわたって報告される報告書の分析を参考にして下さい。

報告書は、同機構HP(<http://www.med-safe.jp/>)でご覧いただけます。